

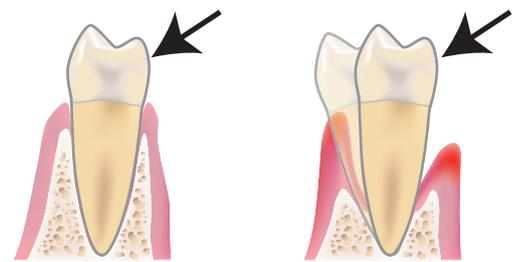
歯ぎしり・くいしばりと歯周病

歯周病は、プラーク（歯垢）中の細菌の感染によって引き起こされる炎症により、歯を支えている骨が溶けてなくなってしまう病気です。

歯周病にかかっている歯に、歯ぎしりによって大きな力がかかると歯周病がより急速に進行してしまうといわれています。

歯ぎしりやくいしばりは、無意識時に行われているので、自覚しにくいことが特徴です。

その原因は未だはっきりとわかっていませんが、持続的に大きな力が歯や歯周組織に加わるため、放っておくと歯を失う場合もあります。そのため、早期の発見と対応が重要です。



健康

歯周病

歯周病が進行すると歯に同じ力が加わっても動くようになる

歯ぎしり・かみしめをする人の特徴

歯がすり減り先端が平らになる

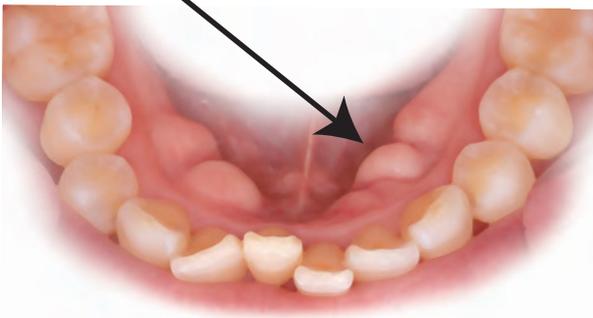
食事をするとき、食べ物が介在する為歯と歯が接触して平らにすり減ることはありません。歯ぎしりをしている時は、一本の歯に200Kg以上の力が加わりあごの骨が歪んでいるそうです。



すり減って平らになった歯

正常な歯の形

骨の隆起



下顎では内側の骨が盛り上がり中に小さいボールが入っているように見えます。上顎では中央に認められることが多いようです。

歯に押しつけられた痕

頬や舌の圧痕

頬や舌にも兆候は認められます。歯ぎしりやくいしばりをする時は、歯に頬や舌が押しつけられ、頻繁に行っている場合そのあとが残ります。



いずれの場合も鏡で確認できますので歯ぎしりが疑われる場合は、マウスピースの作製や咬み合わせの調整、生活習慣の改善等が必要になることもあります。